

# 心臓病が心配な方！！

## 外来で

# 短時間で行える心臓CT

## を、受けてみませんか？



### ● 心臓病が気になる方へ

狭心症は胸が締め付けられたり、圧迫されるような胸痛症状が出ます。これは心臓の栄養血管である冠動脈が何らかの原因で狭くなり、心筋が酸素不足によって生ずる痛みです。狭心症は放置しておく、心筋梗塞（酸素不足から心筋の一部が壊死するほど悪化した状態）へ移行する可能性が高い疾患です。

心筋梗塞は我が国の三大死因の1つであり、リスクの高い疾患ですので、狭心症のうちに早期発見し、心筋梗塞への移行を防がなければなりません。

狭心症と診断された方、心臓疾患の危険因子（高コレステロール血症、糖尿病、高血圧、喫煙等）を指摘された方、胸痛等の症状が気になる方、是非この検査をお受けになることをお勧めします。

### ● 冠動脈の検査が、外来で手軽に行える『心臓CT』

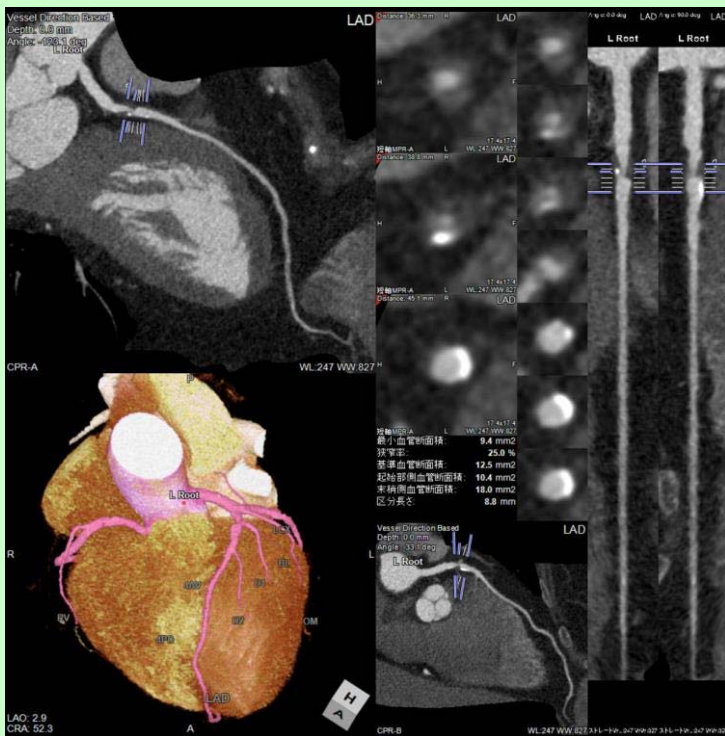
従来、狭心症や心筋梗塞の原因となる冠動脈の狭窄を見つけるためには、手足の血管からカテーテルを挿入する心臓カテーテル検査が必要不可欠なものでした。現在でも冠動脈の病変を診断するには最も確実な検査方法とされていますが、多少、患者さんに負担を伴う検査であり、入院が必要となります。

上記のように負担を伴う検査でしたが、マルチスライス（64列以上）CTが開発されたことにより、従来の造影CT検査と同様の方法で、冠動脈の撮影を行うことができ、冠動脈の狭窄の診断をすることが可能となりました。この検査方法は腕の静脈から造影剤を注射し、10秒程度息を止めていただくだけで短時間に行えるため、患者さんに与える負担が少なく、入院の必要はありません。

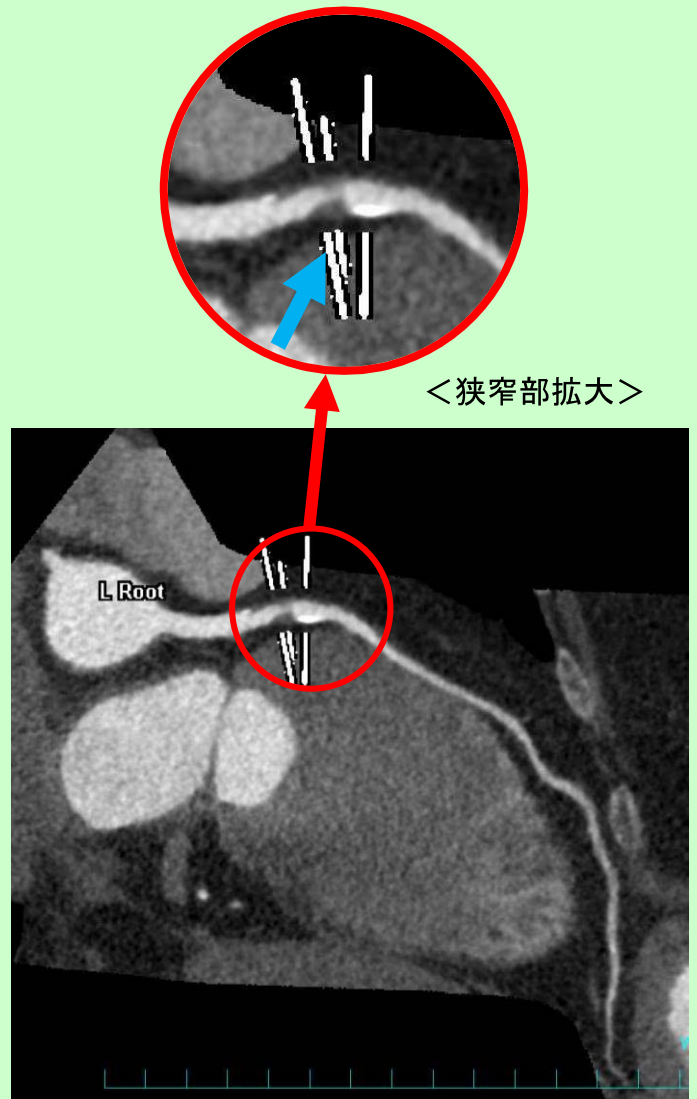
### ● 当院が導入した『マルチスライス（128スライス）CT』の特徴

当院では2016年2月に最新鋭のマルチスライス（128スライス）CTを導入しました。このCT装置の特徴は、X線管が1回転する速度が0.28秒と超高速で、0.6mmという非常に薄い輪切り状画像を128枚同時に収集することができる点にあります。これにより非常に高精細な画像と超高速撮影が可能となりました。従来のCTでは常に拍動している心臓の撮影は不可能とされていましたが、この装置では心臓血管の鮮明な画像が得られ、冠動脈の診断が可能となりました。

また全身の血管に対しても有用で、血管造影検査と同等の情報が得られます。その他、三次元画像（立体）を利用した骨、関節、脊椎などの整形領域、今、話題のメタボリックシンドローム（心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性疾患の危険性を高める複合型リスク症候群）の検査もでき、幅広く利用されています。



当院で撮影した心臓（冠動脈）CTの画像



心臓CT検査をご希望の方は、循環器内科または担当医にご相談ください。